

苗場山麓 ジオパーク

振興協議会だより

[発行日] 平成29年2月24日
[発行] 苗場山麓ジオパーク推進室
[お問い合わせ] 025-765-1600

第8回振興協議会総会

1月23日、栄村のかたくりホールにて、第8回苗場山麓ジオパーク振興協議会総会が行われました。総会では、28年度事業の活動報告と29年度の事業計画案が審議されました。29年度は、30年度に控えた再審査に向けた事業が中心となることが伝えられたほか、「雪国ジオパークフォーラム」を苗場山麓ジオパークで開催することも提案、承認頂きました。

また、資源探査部会、商品開発部会、広報部会、ガイド部会のそれぞれから活動報告と来年度の活動計画について発表がありました。ガイド部会からは27年度に比べガイド件数の減少が報告され、ニュー・グリーンピア津南からは、参加者は宿泊者のリピーター利用が多いため、同じツアー内容で参加が減少したとの分析報告もあり、新規ツアー作成の必要性が述べられました。また、周知にはインターネットやSNSの活用も大事であるものの情報過多の状況となっており、「人と人との関わり合い」や「口コミ」が巡り巡って重要視され始めているとの話も出ました。

これから事務局や部会、関係各所と連携して30年度の再審査に向けてより活発な活動をしていく必要があります。



給食週間 献立テーマは「ジオパーク食めぐり」

津南町の学校給食週間(1月23~27日)は、栄養教諭の発案により「ジオパーク食めぐり」を献立テーマに行われました。

今回は、新潟県内3地域のジオパークと、ユネスコ世界ジオパークがある中国・四国地方と北海道の郷土料理などを取り入れた給食メニューが期間中5日間計画され、各学校で実際に提供されました。

事前に配布された「給食だより」の給食週間特別号には、各ジオパークの紹介や予定メニューとその説明などが掲載されました。また、学校の掲示板上には各ジオパークの位置やロゴマークについて、その土地の特産品などが掲示され、給食に関連して子ども達の目を引くものとなりました。

こういった取り組みがなければ、もしかしたら一生食べることのない食材もあるかもしれません。子ども達が大好きな給食を通じて、ジオパークを学び、他の地域や食への興味につながるとも素晴らしい取り組みとなりました。

★23日は中国・四国地域、24日は佐渡、25日は苗場山麓、26日は糸魚川、27日は北海道地域のメニューとなりました。

*1月24~30日は「全国学校給食週間」です。

戦後、食べ物がないときに、日本の子どもたちを助けようと、世界中の国々から粉ミルクや缶詰などが送られてきました。この世界中の人々の温かい心によって、学校給食が再開されたことを記念するのが、給食週間です。

23日(月) 中国・四国

★おみそえ
いかたこの さつまいもの 甘栗
★雑穀米★
★ももやごのくきん★
★くるも★



24日(火) 佐渡

★どひょうおめん★
★アスパラ菜のサラダ★
★アスパラ菜★
★鶏汁★



25日(水) 苗場山麓

★いもからのごま煎え★
★つなみずのすき焼き★
★つなみず★
★せんべい★



(写真・資料提供:津南小学校)

ジオパークフェア開催



2月4日、8カ所の世界ジオパークと23カ所の日本ジオパークが集まり、東京の有楽町駅前広場でジオパークフェアが開催されました。JGN会長の米田糸魚川市長のあいさつから始まり、モデルの敦土さんが登場するミニトークショーや国内のジオパークをPRするステージイベントが行われました。テント村では、ジオパークを紹介するパネルや各ジオパークの紹介ブースや体験コーナーが展開され、パンフレットやジオグッズなどが配布されました。また、クイズコーナーもあり、正解者には各ジオパークのグッズや特産品などがプレゼントされました。

東京でのジオパークの周知を目的として行われたイベントですが、まだまだ「ジオパーク」という言葉が知られていないことを感じました。

一方で、「苗場」は、聞いたことがある、行ったことがあるという方は多く立ち止まってくださいました。冬にスキーで訪れたことはあるが、夏や秋には行ったことがないとの声もあり、誰もが知っている場所からの案内地図や、グリーンシーズンの誘客、宣伝の必要性を感じました。

ゆざわジオパークにて 雪国ジオパークフォーラム2017 開催

1月18、19日に秋田県湯沢市にある、ゆざわジオパークで「雪国ジオパークフォーラム2017」が開催され、事務局から1名、専門員1名、ガイド1名の計3名で参加しました。

1日目の午前中には、湯沢市内の小学校と高校生による学習発表会が開催され、劇やクイズ、プレゼンなど様々な趣向でゆざわジオパークの魅力が紹介されました。中でも、小学4年生によるジオパーク内の石の性質を調べ、風化度合を実験して調べた研究発表の内容と組み立て方は小学生とは思えない完成度の高さでした。午後からは、雪の中をカンジキで歩いてジオサイトに行くツアーと、雪の城下町、武家屋敷が並ぶ街並みを歩くツアーがそれぞれ地元ガイドにより行われました。これは昨年の「雪国ジオパークフォーラム」で創出されたジオツアーです。

2日目は、体験型ジオツアーを民間で行っている2人の講師からの講演とワークショップ、意見交換会が行われま



した。「冬のジオツアーの企画と広報の方法」と題した講演では、山陰海岸ユネスコグローバルジオパークのかんなべ自然学校の前田敦司さんが、地元教育委員会の協力を得ながら、子どもたちまたは親子で自然を楽しむ活動をお話くださいました。次に、洞爺湖有珠山ユネスコグローバルジオパークの洞爺ガイドセンターの小川裕司さんから「冬のジオツーリズムにおけるリスクマネジメント」と題し、準備や用意のほか、お客様の体調、服装など様々な可能性を想定して、事故を未然に防ぐなど対応している事例を紹介いただきました。

来年度の「雪国ジオパークフォーラム」は苗場山麓で開催予定です。各ジオパークと相談しながら準備を進めていきます。

絵解きジオパーク イラスト:鈴木夏海



ね～お兄ちゃん、この高い白い棒はな～に？

苗場山麓ジオパークのロゴマークをあらためて見てみよう

苗場山麓ジオパークのロゴマークを、ご存知でしょうか？
下にあるのが、そのロゴマーク。

上から、山頂が平らな苗場山と雪の結晶、緑は大地、赤は火山（溶岩）、そしてそれらの重なりで河岸段丘を表しています。その河岸段丘の下には縄文が描かれ、全体の形は縄文土器を表現していて、苗場山麓の特徴が一目でわかるデザインです。

見かけた際には、その意味をぜひ思い出してみてください。



苗場山麓ジオパークのジオサイト

57の見どころを随時紹介していきます

正面ヶ原D遺跡(新潟県最古)



所在地 津南町正面

種別 歴史

正面ヶ原D遺跡は、新潟県で最も古い人類の痕跡を残す遺跡です。およそ3万年以上前の人類の痕跡である石器が出土しました。遺跡は、信濃川右岸、中津川左岸に発達した河岸段丘上の正面段丘面に位置し、およそ2.9万年前に降り積もったとされる始良丹沢火山灰層よりも下層から、刃の部分^{あいろたんざわ}を磨いた局部磨製石斧など、たくさんの石器が出土しています。

段丘の形成や火山灰の存在という「ジオ」と、人類の活動である「カルチャー」を結びつけることができる最古の遺跡となっています。

この遺跡は発掘調査後、盛土保存されており、現在は水田となっています。出土した石器は、津南町歴史民俗資料館と農と縄文の体験実習館なじょもんに展示されています。

常慶院



所在地 栄村箕作

種別 歴史

常慶院は、栄村箕作^{みつくり}にあり、曹洞宗の市河谷第一の由緒あるお寺として知られています。慶長3年(1598)市川氏が会津に移封された後、市川氏の旧城址であった現在の場所に移ったと言われ、段丘の先端を利用した、千曲川右岸の高台に位置しています。地形を巧みに利用した場所と言えます。

寺歴によれば、江戸時代の天和2年(1682)の文書に、室町時代^{むろまち}応永5年(1398)の開山とあり、津南町寺石^{てらいし}の吉祥寺や船山の^{かぶる}大龍院とも関係があるとされています。当地域では大規模な寺院で、仁王門には仁王像が安置され、山門は茅葺^{かぶる}入母屋造、熊谷源太郎作と伝わる彫刻もあります。本堂は、元禄3年(1690)に再建され、釈迦如来が安置されています。

※見学は家主に断ってから。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。

カーボン・オフセット制度の利用を模索！

苗場山麓ジオパークの保全活動を考えていく中で、カーボン・オフセット制度を再認識しました。果たして、この制度をうまく運用できるか、これから本格的な議論が必要です。

1月13～15日、東京の表参道・新潟館ネスパスで、新潟県内で行われているカーボン・オフセットの取り組みの紹介などを行う、カーボン・オフセットフェスタ（主催：新潟県環境企画部）が開催されました。

カーボン・オフセットとは、個人や企業などが排出する温室効果ガス（主にCO₂:二酸化炭素）を、森林管理や再生可能エネルギーの利用などといった活動で差し引いて埋め合わせする（帳消しにする）ことを指します。

この、カーボン・オフセットの取り組みに活用できる制度として「J-クレジット制度」という国の認証制度があります。省エネルギー、再生可能エネルギー、森林呼吸系プロジェクト、工業プロセス、廃棄物、農業の6カテゴリーに分かれ、CO₂排出削減またはその差し引き分（クレジット）として国が認証する制度です。

このクレジットは、売買することができます。今後、こういったクレジットなどをジオパークの保全等の活動費用として、使える領域がないか、またその運用方法などを研究したいと考えています。



苗場山麓ジオパークを紹介するコーナーも

第3回ガイド研修「ジオパークにおけるガイドの役割」

1月14日、今年度最後のガイド研修として「ジオパークにおけるガイドの役割」と題し、日本ジオパークネットワークの主任研究員、目代邦康氏からご講演いただきました。

ジオパークの活動に定型はなく、条約・法律もない。「自らつくる、共につくる」が原則であるということ、またガイドをはじめ、推進する人びとが、自らの発想で自ら実行することが大切であるというお話が印象的でした。



ジオパークの活動の鍵は、ガイドの力です。単に情報を並べるだけでなく、自分で分析し、自分の言葉で伝えることが大切です。できるだけ、自ら調査してわかったことを伝えられるように、日々、何げない自然・生態・文化的事象に目を向けて疑問を見つけ、探求する心がけが必要だということが胸に響きました。

苗場山麓のジオサイトは、他にはない唯一のものです。その場でしか味わえないものを最大限に伝え、「また来てみたい」から「また来ました」へ繋げたいと思います。

第3回 苗場山麓ジオパークガイド認定検定(初級)

3月25日（土）、第3回苗場山麓ジオパークガイド認定検定（初級）を実施します。

過去2回の合格者の方々は、すでに認定ガイドとして活躍しています。また、実際ガイドはできるか分からないけれど、苗場山麓に興味があるという方も大歓迎です。検定料は無料、どなたでも受検可能です！

苗場山麓ジオパークガイド認定検定（初級）

実施日時：平成29年3月25日（土）13:30～14:30（13:00開場）

会場：農と縄文の体験実習館なじよもん

申込締切：3月10日（金）17:00まで ※郵送の場合は3月10日当日消印有効

申込方法：所定の用紙に必要事項をご記入の上、ファックス・持参・郵送にて申込みください。

所定用紙は、栄村・津南町役場、なじよもん、津南町文化センターなどに配置してあります。

また、苗場山麓ジオパークホームページからダウンロードすることもできます。

申込先：苗場山麓ジオパーク推進室 電話 025-765-1600 ファックス 025-765-2299

検定料：無料

お問合せは、上記ジオパーク推進室までお電話ください。

絵解きジオパーク その答えは

昭和20年2月12日、飯山線森宮野原駅の構内で積雪7.85mを記録した標柱です。鉄道駅における積雪記録としては、日本一の積雪といえます。また、平成23年3月12日の長野県北部地震（マグニチュード6.7）の震源地に近く、周辺は甚大な被害がありました。この標柱をよく見ると左傾しており、地震の遺構として保存したものです。すなわち、地震遺構をジオサイトとして登録しています。